

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【第二東中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等の活用で、学力向上目標に対しての一定の成果がみられたが、基礎学力の確実な定着には至らなかった。次年度は、「スタディサプリ」を継続して活用しながら、ICT機器やAIの活用を促進し、個に応じた基礎・基本の学習が行えるように授業改善や教材改善を図っていく。
思考・判断・表現	次年度も各教科の授業において、発表する場面をより多く設定していく。生徒が主体的に表現等を行えるように、ICT機器の活用も積極的に行う。教科のみならず、特別活動や総合的な学習の時間、特別の教科道徳においても積極的にICT機器を活用した情報共有や発表場面を取り入れる。教員間においては、ICT機器の活用だけでなく、AIの活用も視野に入れ、授業での活用方法、実践事例の共有を行っていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況について、偏りがみられる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習する時間を十分に確保できていない。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む【毎週木曜日の朝に実施】。また、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を授業中の課題に取り入れるなどして、定期的に取り組めるようにする。【毎日】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学校生活において、話したり書いたりするような、自分の考えを表現することに課題がみられる。 <指導上の課題> 生徒が発表する場面の設定が十分にできていない。	⇒ 各教科の授業において、発表する場面の設定をより多くする。また、積極的にICT機器を活用することで、生徒が主体的に発表を行えるようにする【単元ごとに発表を実施】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等の活用だけでなく、自己に合った学習の方法を検討し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む時間を木曜日の朝に継続的に実施することができた。
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、発表形態を工夫しながら発表する場面の設定をすることができた。また、生徒が主体的に発表を行えるように、ICT機器の活用を工夫した授業を実施することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国平均と同程度の値が見られたが、全体的に課題がみられた。数学では、「データの活用」の部分で、全国平均の値に近づくことができていたが、「数と式」の問題において用語の意味を理解しているかという部分に課題がみられた。理科の中では、「疑問を解決するための課題を記述する」問題において全国平均の値を上回った。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」において、「記述式」の項目で全国平均の値を上回ることができたが、「読むこと」の「文章の構成や展開」について、根拠を明確にして考えることができるかどうかの部分に特に課題がみられた。数学では「短答式」の問題で全国平均に近づくことができたが、「記述式」の項目で特に課題がみられた。「理科」では全国平均の値を上回ることができた問題もあった。すべての教科において、書く活動を充実させていきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	同一集団での経年比較により、国語と理科においての知識・技能の改善が見られた。どの教科においても、系統的でつながりのある内容について、既習事項を確認したり、繰り返し学習したりすることにより、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	同一集団での経年比較により、理科の思考・判断・表現の改善が見られた。また、その他、数学の関数の分野や社会の歴史の分野、理科の第一分野においても改善が見られた。課題に対して自身で思考を深め、発表する機会が多い授業を設定した成果と考えられる。今後も考えを言葉で伝える活動に重きを置いていく。教科等横断的に複数の情報の中から必要な情報を見つける活動や、異なる考えをもった人と協議して解決策を見出す活動に取り組み、思考・判断・表現の力を高めていく。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む時間を木曜日の朝に継続的に実施することができた。また、授業中の課題として「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用できていない教科もあるので、学校全体で共有し取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、生徒が主体的に発表を行えるように、ICT機器を活用することができた。また、自分の考えを話したり書いたりする場面設定を授業単元で設定することができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)